

指定管理者制度導入施設評価票

評価対象年度	令和4年度		
施設名	秋田県立田沢湖スポーツセンター	設置年	平成 18 年
所在地	仙北市田沢湖生保内字下高野73-75		
指定管理者	田沢湖高原リフト株式会社		
県所管課	スポーツ振興	課	調整・スポーツ活性化 チーム

1 施設の概要

設置目的	スポーツの普及振興を図り、もって県民の心身の健全な発達に寄与する。					
県の施策上の施設の位置付け	<p>新秋田元気創造プランや各分野の個別計画等における、当該施設の位置付け・目標</p> <p>-----</p> <p>スポーツ施設の充実とスポーツに親しむ環境の整備を行うとともに、体育館、サッカー・ラグビー・陸上競技場等を併設し、県外からも合宿を受け入れている施設であり、スポーツによる交流人口の拡大を推進する重要な施設と位置付けている。</p> <p>-----</p> <p>新秋田元気創造プランや各分野の個別計画等における目標を達成するための取組として、当該施設に求められているもの</p> <p>-----</p> <p>スポーツ大会のみならず、各種合宿や大規模イベントを開催し、幅広い世代の集客による施設の有効利用を図り、施設の効果的な利用による集客増加と収益収入の拡大を推進すること。</p>					
施設の面積	敷地面積 226,505.04㎡、建床面積 3,385.94㎡、延床面積 6,506.79㎡					
主な設置施設	宿泊棟・体育館棟・陸上競技場・ラグビー場・サッカー場・ジャッジハウス					
指定管理業務の内容	料金制	有 <input checked="" type="checkbox"/> (利用料金併用制) ・ 完全利用料金制) 無 (指定管理料制)				
	料金設定	別紙資料のとおり				
	サウンディング実施対象施設※	×	←○、×を記入			
	指定期間	R3.4.1	～	R8.3.31		
	営業期間・時間	通年 開場時間 8:00～21:00				
自主事業の内容	<ul style="list-style-type: none"> ・バスケットボール11回 ・卓球1回(日帰り開催) ・小学生夏休み宿泊体験2回 ・中止：バスケットボール2回、小学生バレーボール1回 					
直近3年の年間利用者数	R2	13,450人	R3	15,455人	R4	21,407人
直近3年の年間料金収入	R2	12,499千円	R3	15,291千円	R4	24,114千円
直近5年の収支決算(単位:千円)	H30	R元	R2	R3	R4	
収入計	74,983	70,959	55,618	62,890	55,198	
利用料収入	44,900	41,222	12,498	15,291	24,114	
指定管理料	28,232	28,232	38,338	45,035	29,053	
その他収入	1,851	1,505	4,782	2,564	2,031	
支出計	76,507	74,380	67,499	67,108	72,334	
人件費	40,093	37,215	37,215	36,249	38,146	
人件費以外	36,414	37,165	30,284	30,859	34,188	
差引	▲ 1,524	▲ 3,421	▲ 11,881	▲ 4,218	▲ 17,136	

※単年度維持管理・運営費が1億円以上の公募施設について、民間事業者の意見を参考に運営手法や公募要件を検討するため、指定期間終了の2～3年前にサウンディング(官民対話)を実施する。

2 観点ごとの評価

(観点Ⅰ) 施設の設置目的(施設の目指す姿)の達成に関する取組

【ポイント】

施設の設置目的(施設の目指す姿)を達成するための取組がなされ、その効果があったか。

○指定期間における運営方針・施設の利用目標

※協定書に記載した運営方針・施設の利用目標を記載
(R6年度以降に指定管理を開始・更新する施設から基本協定書に定めることとなっているため、それまでは記載不要)

○目標の設定(毎年度、県と指定管理者が協議の上、業務計画書に定める目標)

令和4年度の目標	利用者数 31,000人
----------	--------------

○指定管理者による実績報告

直近3年の実績	年度	R元年度	R2年度	R3年度
	目標	38,350	34,000	32,500
	実績	32,370	13,450	15,455
	達成率	84.4%	39.6%	47.6%
令和4年度の実績	実績	21,407	達成率	69.1%
	具体的な取組とその効果	目標を宿泊15,000人、日帰り16,000人と設定。コロナへの感染防止対策を講じ、安全安心に利用できる施設としての受け入れをしたものの、自主事業や合宿のキャンセル、学校の宿泊許可がされず、通年では目標に届かなかったが、1月から3月にかけてスキー客や事業・合宿などの行事等が順調となり、前年比では38%の増加となった。		
令和5年度の目標(設定根拠)	目標	31,500人		
	設定根拠	令和5年度は宿泊13,500人、日帰り18,000人、トータル31,500人に設定。5月よりコロナ感染症が5類移行に伴い、利用者数が増加することを念頭に置き、学校研修における活動資料集を配布し、クラブチームや諸団体等への営業活動を含め、SNSなどを活用した営業強化を図る。 令和3年度・4年度において、コロナの影響や少子化が進む中で現実とかけ離れた数値目標だったため、宿泊利用者を若干下方修正した目標とした。		

※指標が複数ある場合は欄を適宜追加すること。

(観点Ⅰ) の評価

評価欄	評価者	評価	コメント
	指定管理者	C	コロナ禍で自主事業や教育旅行(学校研修)、合宿遠征等では宿泊が許可されず、中止やキャンセルなどの影響があり、目標としていた数値には届かなかったものの、冬期間の利用客の増加などにより前年度の実績は大きく上回った。
県(所管課)	C	施設利用者数について、主な利用者は学校関係者が多く、コロナ禍の背景を踏まえ、同日2校以上の宿泊が敬遠されたことも影響し、目標は未達成であったが、利用者数は回復傾向であることから、目標達成に向けて努めていただきたい。	

【評価基準】次の基準により評価。基準によらず各区分に相当すると認められる場合は、コメント欄に理由を付すこと。

また、施設の設置目的(施設の目指す姿)を達成するための、指定期間における運営方針・施設の利用目標について、指定期間開始年度から評価対象年度までの達成状況をコメント欄に記載すること。

- A: 目標達成(数値目標の場合は100%以上)
- B: A及びC以外
- C: 目標達成に向けて改善が必要(数値目標の場合は80%未満)

（観点Ⅱ）施設の有効性（利用者の満足度）の向上に関する取組

【ポイント】

サービスの質を維持・向上するための具体的な取組がなされ、その効果があったか。

○指定管理者による実績報告

利用者満足度の状況 (直近3年)	R元年度	R2年度	R3年度
	92.1%	91.3%	93.7%
令和4年度の実績	実績	87.4%	
	具体的な取組とその効果	<ul style="list-style-type: none"> アンケートの意見内容を把握し、会議に諮り具体的な対応を図ってる。 修繕には即時対応し、経費の嵩む事案に対しては優先順位を付け対応。 館内において清掃が行き届き清潔で、気持ちよく利用できたとの評価があった。 	

（観点Ⅱ）の評価

評価者	評価	コメント
指定管理者	A	利用者アンケートを基に必要な限り改善を図った結果、令和4年度は80%を超える高評価を得ることができた。
県(所管課)	A	直近3ヶ年を含む満足度は、評価A基準を満たしており、寄せられた意見・要望を可能な限り施設運営に反映する取組が、高い満足度につながっていると評価できる。

【評価基準】次の基準により評価を行う。基準によらず各区分に相当すると認められる場合は、コメント欄に理由を付すこと。

A：満足度80%以上　　B：A及びC以外　　C：満足度60%未満

（観点Ⅲ）効率性の向上等に関する取組

（1）経費の低減

【ポイント】

施設の管理運営（指定管理業務）に関し、経費を効率的に低減するための十分な取組がなされ、その効果があったか。

○指定管理者による実績報告

令和4年度の実績	経費の低減実績	対前年利用者増や最低賃金の改定、光熱費の高騰で対前年7.7%増加したが、通信費・印刷費・電気使用量等、全体的に経費の節減を進めコストの削減を図った。
	具体的な取組とその効果	光熱費に関しては、照明等影響のない最低限度に保つことを徹底、購入物は低廉且つ数量を減らして実施するなど経費の節減をした。

※費用の総額では効果が計れない場合は、例えば利用者1人当たりの単価を算出する方法等も考えられる。

（2）収入の増加 ※指定管理料制施設を除く

【ポイント】

収入を増加するための具体的な取組がなされ、その効果があったか。

○指定管理者による実績報告

令和4年度の実績	収入の増加実績	令和4年度は、昨年度より宿泊利用者数が3,182人の増加となり利用料金57%の増加となった。指定管理料において、昨年度11,569千円を増額していただいたがその分を差し引くと、収入が前年を7.6%上回った。
	具体的な取組とその効果	平日の利用増加を考慮して、教育旅行や学校研修の誘致を図るため、活動プログラムの開発等を行い、営業活動をすることで利用者が増加した。冬季においては一般利用者のリピーターなどの効果があり昨年を上回った。

(観点Ⅲ) の評価

	評価者	評価	コメント
評価欄	指定管理者	B	経費についてはスタッフ一同節減に努め、収入については感染防止策などを講じ安全安全な施設を掲げ、一般利用者・学校研修などで増加し、宿泊利用者が66%増と改善した。
	県 (所管課)	B	原油価格高騰等の影響を受けて、支出全体が前年度比で増加しているため、引き続き経費の低減に努めていただきたい。 収入の増加について、コロナ禍により落ち込んだ利用者が回復傾向にあるため、目標数値の達成及び収入の増加を目指していただきたい。

【評価基準】 次の基準により評価を行う。基準によらず各区分に相当すると認められる場合は、コメント欄に理由を付すこと。

A：(1) 経費の低減、(2) 収入の増加とも前年比で5%以上改善

B：A、C以外

C：(1) 経費の低減、(2) 収入の増加とも前年比で5%以上悪化

(観点Ⅳ) 公の施設にふさわしい適正な管理運営に関する取組

【ポイント】

施設の管理運営（指定管理業務）の適切な実施に向けた具体的な取組がなされ、その効果があったか

○指定管理者による実績報告

令和4年度の実績	<p>1. 管理運営にあたって 基本方針に従って、県民や利用者ニーズを把握し、要望や意見に迅速に対応し各種自主事業や学校研修等に積極的に取り組んだ。</p> <p>2. 職員の資質向上について 施設の管理運営に対し、適切な人員配置を行い各人のスキルアップを含めた研修や接遇研修などを受講してサービス向上に努めた。</p> <p>3. 安全管理等の対策について 日頃より施設点検を実施し、結果を踏まえた修理を施し、利用者に安全安心でできる施設としている。</p> <p>4. 安全管理及び危機管理等について 緊急対応マニュアル作成し、防犯・防災及び緊急時の緊急連絡網体制を整え利用者が安全に利用できるよう実施している。</p>
----------	--

(観点Ⅳ) の評価

	評価者	評価	コメント
評価欄	指定管理者	B	令和4年度の実績報告のとおり、利用者数は前年を上回った。収支については課題が残ったが、管理運営を適切に行い指定管理者として適正な業務を行っている。
	県 (所管課)	B	コロナ禍による影響を受けつつも、前年度と比較して利用者数・利用料金収入ともに増加し、改善の兆しが見える。営業活動等を実施し、利用者層の拡大を図ることで、収益力の向上や施設利用を促進し、適正な管理運営に努めていただきたい。

【評価基準】 A：順調（改善点なし）、B：概ね順調（重大な問題点なし）、C：改善が必要（重大な問題点あり）

県（所管課）の評価においては、モニタリング結果を踏まえて評価を行う。

【県の施策達成に向けた県所管課の施設運営に対する考え方】

※全施設記載

○県の施策の達成状況 (施設を運営することで、県の施策がどの程度達成されたか等) 営業活動等を実施し、新規のユーザー層開拓に取り組むことによって、「第4期秋田県スポーツ推進計画」の中にある、幅広い世代の集客による施設の有効利用を図っていることから、県の施策に貢献していると考えられる。
○施設運営の課題 築後17年が経過しており、経年劣化も見られることから、施設や設備機器等の修繕・更新を計画的に行う必要があるが、十分な予算が計上されていない。
○今後の方向性 (県の施策の達成状況や課題を踏まえて、今後所管課としてどのように対応していくか等) 施設利用者数の増加を図るため、平日の利用者数の増加を見込める大会やイベント開催等での施設利用を促進し、宿泊及び日帰り利用者も気軽に利用できるような環境を整備することで、幅広い世代の集客による施設の有効利用を図る。

【外部有識者委員会による評価（提言）】

※外部有識者委員会の評価対象となる約20施設について記載

評価（提言）
○施設の管理運営状況について (（観点I）～（観点IV）に対するコメントを記載)
○県の施策達成に向けた施設運営について (県の施策達成に向けた県所管課の施設運営に対する考え方を踏まえてコメントを記載)

【外部有識者委員会による評価（提言）を踏まえた今後の対応方針】

今後の対応方針
指定管理者 (施設の管理運営等について今後の対応方針を記載)
県所管課 (県の施策達成に向けた施設運営等について今後の対応方針を記載)